

令和元年度の教育活動に対する学校評価書

令和2年3月6日

学校法人相愛学園 焼津幼稚園長 相田 早苗

学校法人相愛学園 焼津幼稚園学校関係者評価委員会長 渡邊 徹

□ 本園の教育目標

『明るく心豊かに』を建学の精神として、4つの目標を掲げ、それらを達成すべく、独自の教育課程のもとに年間指導計画を立案し、日々の保育に精進する。

教育目標の4つの柱

- 1、 じょうぶなからだに
 - 2、 いのちをたいせつに
 - 3、 やるきのあるこに
 - 4、 よくかんがえるこに
- ・ 体験を通しての学びを中心とした総合的な生活環境の構築を進め、幼児期に身につけたい発達課題の達成を目指す。
 - ・ 情操の陶冶を主眼におき、感性の育成をねらっての造形教育、音楽教育や健全な心身の育成をねらっての体育指導、屋外あそび、自然体験を園生活の軸とする。

□ 本年度の重点目標

- ① 集団生活の中で、一人一人が自分らしさを発揮しながら瀬油袋的に生活していく姿を育む。(継続)
 - ・ 幼児理解を深め、個あるいは集団の育ちを丁寧に捉える。
 - ・ クラスや友達同士などの集団の中で、その子なりの思いや意欲、力が引き出せるよう援助・指導をしていく。
 - ・ 相手の思いにも気づき、友達との生活を楽しむことができるように援助していく。

- ② 幼児、保護者ともに安心な園生活を送ることができるよう環境を整え、防災について計画や振り返りを心がける。(継続)

□ 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	取り組み状況・反省と改善策	評価点	意見
① 本園での活動や行事が、幼稚園教育要領、本園の教育課程や幼児の発達に即した内容、方法によって、適切に計画性をもって運営されているか。また、主体性を育むことを念頭に置いて指導・援助がなされたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度においても、本園の目指す方向を教職員間で共通理解・再確認しながら、指導計画の作成・実施を進めてきた。 ・指導計画の作成に当たっては、期の節目や教育行事などの際に、指導の振り返りやこどもの成長・課題について共通理解を図りながら、幼児全体の発達と個の発達、両方の様子をしっかりと捉え、生活リズムに配慮し、計画・実践してきた。 ・実践の振り返りについては、子どもの育ちを『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』に照らし合わせながら進めた。 ・主体的な子どもの姿を目指し配慮して保育を進めてきている。園内研修では、全てのクラスで園内公開保育を行い、その都度、参観の視点を明示しつつ子どもの育ちや主体性を育てるための保育者の関わりや援助について、付箋を使ったワークをしながら協議を行った。 ・共通理解しているつもりでも保育者によって方法が違うこともある。その良さや課題を知るために、フリートークの時間を設け、さらなる情報交換に努めてきている。 ・主体性を育むための保育室や園庭の環境という点で、もっと工夫が必要であるという課題が残る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな園目標に沿って、一つ一つの行事、営みが園児を育てている。たとえば『がんばりハイク』では、家を出るとき「がんばるぞ!」、帰宅すると笑顔で「友達とがんばってきたよ!」と語る姿に感動したという保護者の声。その背景に、園長を中心としたベテラン教師を若手教師の共通理解が図られ、ダイナミックな保育が展開されていることがあげられる。
② 一人ひとりの幼児の思いや表現を大切に、保育者それぞれが、個に応じた指	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢相応の自己表現や自己発揮ができるよう、一人一人の思いや姿に合わせた関わりを心がけている。子ども主体の保育を考えているものの、保育者としての援助の度合いに 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生方が全員の子どもを把握してくれている。」という保護者の声に象徴されているように、ベテラン教師の経験から身に付けている

<p>導・援助をくふうしていたか。</p>		<p>については迷いもあり、保育者のキャリアが違えばなおさらである。指導や援助すべきところをきちんと押さえながらも過剰な援助とならないよう配慮していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達の表われも様々で個別の指導を必要とする子が増えてきている現状の中、外部の専門機関とも連携しながら進めてきている。市の巡回相談や保育所等訪問支援事業等も活用し、外部の専門員とも情報交換しながら支援にあたってきている。保護者とも必要に応じて面談の機会を設けてきているが、子どもの育ちについての理解を共有することが難しい。 		<p>園児一人一人への理解と指導が、若手教師の指導力を高めているのではないか。ふだんの個に応じた声かけが、子どもの表情を明るくし楽しい雰囲気をかもし出している。</p>
<p>③ 園内の施設・設備環境、防災対策が、幼児の安全快適な生活を保障するものとなっているだろうか。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 園内の遊具等は、日常的な目視や点検を行いながら安全に努めている。ただ、経年劣化の遊具も増えてきて、今後の使用については検討が必要なものもある。 避難訓練については津波避難に特化した訓練を進めながら、反省が出れば次に生かすよう実施した。火災による避難訓練と消防署が実施する花火教室を経験した。 衛生面で、ノロウィルスやインフルエンザ等の流行病に備え、学園の養護教諭の指導の下、保育者や保護者への情報伝達や対応の共通理解を図ってきた。健診等で気になる様子が見られた場合は、保護者への伝達も注意を払いながら伝えるよう配慮している。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 空き教室の利用にも創意があり、園児の気づきを期待する掲示物の工夫が見られる。安全への配慮も行き届いている。望むことは、園児の夢を育てる環境の創出に努めたいということ。 <p>《特記事項として》</p> <ul style="list-style-type: none"> “伝統”の確かさと重みを痛感する。

園内自己評価（個々の教職員の自己点検・評価とともに、保護者アンケート等の資料に基づいた園長としての自己評価）と、学校関係者評価委員会の結果をふまえ、以下の点を次年度への課題を捉え、重点事項としていく。

□ 次年度の重点事項について

- 1、集団生活の中で、自分の思いを表現しながら夢中になって取り組む子どもの姿を求め、主体性を育む保育をめざしていく。そのための保育室や園庭の環境についても考えていく。
- 2、“幼児理解”を深め、個に応じた教師の援助について検討していく。

以上のように、学校評価のまとめとして報告する。